

11月のおすすめ本

『ジェンダー研究を継承する』

【分類 1103/サ】佐藤文香・伊藤るり/編著 人文書院 2017年

女性学・ジェンダー研究（主に女性の地位向上と多様な性の研究を目的とする学問）のパイオニア（先駆者・開拓者）たちに対するインタビュー形式で本は進んでいきます。研究者達も最初からフェミニズム（女性の権利を男性と同等にしようとする思想・運動）を掲げていたわけではなく、「自分の経験や問いからスタートする」と編者は述べます。ジェンダー研究の基盤を理解し、現代の課題は何かと考えさせられる1冊です。

『対話する社会へ』

【分類 2106/テ】暉峻淑子/著 岩波書店 2017年

「非正規労働者全員を正規社員にした」うえで、生産性も上げた広島電鉄の労使の取り組みが紹介されています。規制緩和で競争が起き、人件費切り下げのため契約社員制度が導入されました。しかし組合は契約社員の声を聞く努力をし、契約社員を正社員にすることを会社に要求。対話を重ね労使双方が納得できる賃金制度ができたのです。他に道路の拡幅工事で行政と住民の対話の結果、全日本建設技術協会賞を受賞するに至った例も紹介され、物事を「対話」で解決していくことの大切さに気づかされます。

『レッド あかくてあおいクレヨンのはなし』

【分類 6108/ホ】マイケル・ホール/作 上田勢子/訳 子どもの未来社 2017年

レッドと書かれたクレヨンは、赤く描くのが苦手です。周りはいろいろと助言しますが一向にうまくなりません。そんな時、新しい友達がやって来て…。レッドがありのままの自分を受け入れるまでの物語です。作者自身も読字障害があり、自分と周囲との認識の違いに傷付いた一人です。多様性の在り方をシンプルに描きます。アメリカ図書館協会のLGBTQ向けの推薦図書にも選ばれている絵本です。